



会 議 録

八幡市教育委員会

開催日時	平成28年1月26日(火曜日) 午後 3時00分～午後 3時52分	
場所	文化センター3階 講習室5	
委員	市長 堀口 文昭 教育委員長 大隅 久美子 職務代理者 松下 順英	教育委員 布目 有希子 教育委員 橋本 陽生 教育長 谷口 正弘
事務局	教育部長 大東 康之 部付部長 茨木 章 教育部次長 北 和人	教育総務課課長 寺村 敏美 教育総務課係長 林 左和子 教育総務課 大崎 茂夫

1. 開 会

- ・市長あいさつ

2. 議 題

- (1) 教育大綱(最終案)について

資料1

3. 八幡市の教育行政について(意見交換)

4. 閉 会



	内 容
[事 務 局]	<p>1. 開 会</p> <p>定刻となりましたので、平成27年度第3回八幡市総合教育会議を開催いたします。それでは、堀口市長からご挨拶をいただきたいと思ひます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市長のあいさつ
[市 長]	<p>皆さん、こんにちは。本日の総合教育会議も第3回目となりまして、教育委員の皆さんにはお忙しい中、ご出席いただきまして、ありがとうございます。</p> <p>この総合教育会議につきましては、法の改正を受けまして、本年度に会議が設置されまして、1回、2回と会議を重ねてまいりました。</p> <p>第1回目には、会議の運営についての要領を定めまして、大綱のイメージ図を提示させていただき、第2回目では、イメージ図に基づいた教育大綱の素案をお示しさせていただき、教育委員の皆様からいろいろとご意見を賜りまして、誠にありがとうございました。</p> <p>本日は、第3回目ということで、前回の教育大綱の素案についての修正点について、事務局の方で少し手直しをいたしましたので、それを最終案として提示させていただくこととなりますので、よろしくお願ひしたいと思っております。</p> <p>また、3番目の「八幡市の教育行政」につきましては、教育現場の課題や問題点につきまして、率直なご意見を頂戴してまいりたいと思ひます。</p> <p>本日も、どうぞよろしくお願ひいたします。</p>
[事 務 局]	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは、これより議題に入りますので、会議の進行役は、市長にお願ひいたします。市長、よろしくお願ひいたします。</p>
[市 長]	<p>2. 議 題</p> <p>(1) 教育大綱（最終案）について</p> <p>それでは、会議次第に従いまして、議題に入らせていただきます。</p> <p>議題は、3回目となります「教育大綱（最終案）について」でございますが、前回の素案について少し修正がございました。事務局の方で手直しをいたしましたものを、最終案としてご確認いただきまして、なお不備な点などございましたら、ご指摘いただきたらと思ひます。</p> <p>それでは、事務局から説明をお願いします。</p>
[事 務 局]	<p>八幡市教育大綱（最終案）につきまして、前回の素案から少し整理させていただきました箇所をご説明させていただきます。お手元の資料1をご覧ください。3. 基本構想（1）就学前教育の充実の3行目の「なお、家庭教育の重要性および家庭の役割を親が自覚し、家庭での基本的な生活習慣の確立や絵本の読み聞かせや体験活動など情操教育に積極的に取り組んでいただくなど市民協働により、さらに就学前教育の充実を推進してまいります。」という素案ではございましたが、表現的な事を考えまして、「取り組めるよう、家庭との連携をより一層推進します。」というように赤文字で修正したものでございます。以上、ご審議いただければと思ひます。</p>
[市 長]	<p>ありがとうございます。事務局から最終案として、説明がございました。修正カ所は1カ所でございます。最終案として、これで大綱としていかがでしょうか、ご承認をいただけますでしょうか。</p>
[委 員]	<p>異議なし。</p>
[市 長]	<p>それでは、この案を「八幡市教育大綱」と決定させていただきます。ありがとうございました。</p> <p>また、この大綱は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第一条の三第3項に則りまして、「地方公共団体の長は、大綱を定めた時は、遅滞なく公表しなければならない」とされておりますので、市ホームページなどで公表してまいりたいと思っております。</p>



[市 長]	ります。 それでは次に、次第の3「八幡市の教育行政」につきまして、八幡市の教育に関する課題や問題点について、率直なご意見等いただきたいと思ひます。何かご意見等はございませんか。
[委 員]	3. 八幡市の教育行政について（意見交換） 1週間ほど前に、全中学校で英検の受験料を八幡市から補助してもらえたので、私の子は伸び伸びと受験でき喜んでいました。これからも引き続き補助していただきたいと思ひます。
[委 員]	合わせてですね、グローバル化という意味で八幡市も児童、生徒の中に外国人がいるわけですし、英語教育というのでしょうか、外国語教育というのでしょうか、グローバル化の進展というのでしょうか、そちらの方でより一層充実させたいと私自身も考へているわけですが、その辺りについて市長のお考へがあれば、ご教授いただきたいと思ひます。
[市 長]	英語は、年間3,000語程度の新しい言葉が生まれているのかな、確かベースの所は別として、その3,000語を使っているかはわかりません。しかし、早くから慣れ親しんだら良いのはその通りなのですが、一方で、日本語の感覚をどう掴むのかというところからいうと、これは前田さんという外資系のパルプメーカーに勤めておられた方がメールマガジンに掲載された内容ですが、気を使わなければならない英語の場合は、米国人全体の5%居るか居ないかなんです。それに通用するのは、結構厳しいですが、それ以外なら中学校の英語で十分対応できるレベルだと仰っています。英語教育で何を指すかという時に、正しく見据えないといけないのではないかなと思ひます。どのレベルの英語を指すのかよく分からないので、ある程度明確な方が良くと思ひます。 もう一つは、3,000語程度の新しい言葉ができていく改廃が激しい言語でもあるから、慣れ親しむ方が良くという考へ方もあるようです。向こうの小学生が学習している英語の発音の部分がこちらの初期教育でも必要だと思ひます。本当に必要なら勉強するでしょうし、中学校レベルの英語で対応できる人もいますし、もう少し早くから慣れ親しんだ方が良くという人もいらっしゃるの事実なので、実際の所は、わかりませんね。
[委 員]	例えば、英検を進める声がありました。一方では、外国人助手を契約で学校に配置すること等ありますが、予算に限りがある事なので何を進めていくか、受験料の補助や人材的補助など色々あると思ひますが、私は外国人と直接接するのが良く思うのですが、如何でしょうか。
[市 長]	昔のAET及びJETプログラムと現在とでは、どうなのでしょう。
[事 務 局]	今は、各中学校に配置していますので、JETプログラムは1名が各学校を回っていたので、それと比べるとかなり英語に触れる機会は多くなっていると思ひます。
[委 員]	小学校で一部拝見しましたが、まだまだ型にはめられているというところがあるように思ひました。グローバル化に対応するためには、日常生活の中で自然に英語に触れる機会や、自分たちが発信したいものを英語で発信することが必要だと思ひます。そういった中で英語教育をやろうとすれば、ある程度継続的に自由に英語に親しむ環境が整えられる必要があると思ひます。そのためにはセンター的な取組のなかでの指導法研究・教材開発や、いつでも協力を得てアシストができるというような仕組みが必要かと思ひます。例えば八幡市の観光紹介を英語発信する取り組みをやろうとすると、それなりのネイティブの支援が必要だと思ひます。また、国際交流の機会も必要ではないでしょうか。その辺りをもう一歩進められないかなと思ひている次第です。
[委 員]	今の話題でいえば、私も実は中学校の英語の教師でしたけれど、今の英語教育の課



[委 員]

題、話せる英語というものがものすごく大きなテーマになっていますね。僕らが受けてきたのは、読解中心の教育であって英作文は英作文であったのですが、実は私、中学校の時に英作文を書かされるのがとても苦手でして、表現力が育っていないからですが、そのような教育を受けてきましたけれど、今、小学校で総合的な学習の中で外国語学習ほとんど英語ですが、英語科としての授業じゃないので、だから評価もしない。英語に対する慣れとか口頭での表現力程度は、目指しているわけですね。

教科にするという文科省の計画はあるのですが、教科にすると評価をしなければならぬ。例えば、小学校で先生が英語指導助手と一緒に授業をやっているんだけど、どちらが責任を持つかといえば、小学校の先生なのです。小学校の先生は、英語の分からない人が多いのです。先生が英会話ができ、正しく評価できる人であればいいのですが、そういう人材育成という大きな課題が一つありますが、この課題は簡単にクリアできません。まさか指導助手の人に評価させるのか、そこまでやっていいのか。

昔は、JETプログラムで中学校に配置されており、人数が少ないのであちらこちらの中学校を順番に回っていましたが、今は民間から派遣されていますが、どこの市でもされています。橋本先生がおっしゃるように、幼少期から外国語を生で聞いて、一定の表現ができるようなところは賛成なのですが、小学校の3年生、4年生、5年生ぐらいまでは、日本語の力をしっかりつけないとだめだと思います。その力もないのに英語を喋るかというような事だけでは、だめだと思います。表現力を付けるところまで高めないといけないし、日常会話ができる程度ではだめだと思います。

文科省の施策もわかるのですが、今、市として何ができるのか、指導助手を現場に入れて、もっと場を広げる等色々な工夫をしていったらいいと思うのですが、子どものためになる施策をしていかなければいけないという思いを持っています。

[市 長]

なかなか難しいですよ。大隅先生は、いかがですか。

[委 員 長]

英語教育ではなく、学校教育ではなく、社会教育で考えると、公民館講座や図書館の活動を見ると、就学前については幼稚園、保育園で色々手立てをしていますが、社会教育の部分の文化活動の部分は、高齢化しているので何か良い施策がないものかと思っています。夜間に英語講座やロボット講座等を設ける事はできないのかと思っています。今までの書道、音楽、ダンスなどのメンバーが全て高齢化しています。低年齢層の興味がある文化系がないのです。スポーツは若い方も入っていますが、文化系は高齢化が進んでいるので、講師を雇ってもらうなどしていただけないかと思っています。

[市 長]

社会教育は、参加者が少ないので、今後難しいですよ。政治活動も同様で結構減少しています。誰かが言っていましたが、ホリエモンさん、堀江貴文さんが出たあたりから社会生活が、お金中心になってきたとブログに書いてありました。

教育長は、どうぞございますか。

[教 育 長]

私が今一番、課題意識を持っているのは、家庭です。これは、就学前と結びつくと思うので、家庭教育というか就学前教育がどうあるべきか、^{べきろん} 霧論でなくても、そこが基本になっていると思います。

幼稚園の園長会でお願いをするのですが、幼児期に受ける子どもの育ちというのが、その後の人生に非常に大きな影響を与える。これは、ジェームズ・J・ヘックマン氏も指摘されていると思うのですが、いかに就学前のお父さんお母さんに、その辺りの意識を持ってもらえる方法があるのかどうかですが、幼稚園の園長先生や教職員には、私が話をすることが若干ありますが、保育園の園長先生や民間の幼稚園になると接点がないわけです。

保育園の方には、それを緩和するために学童プログラム、学校に入学するまでに、ここまでお願いしておきますよというプログラムを作って保育園に配っていますが、



[教 育 長]	その辺りの課題を解決していかないと、その後の小・中学校の学級問題にしても、育ちの問題が最近言われている就学援助率までかかわってくるのかなという危機意識はあるけれど、就学前に対してどうアプローチをするのかが大きな課題かなと、私自身は、そのように思っています。その辺りの育ち方で色々な事が言われています。他の市町の事はわかりませんが、改革的に、この八幡市の教育部の中で、最重要課題が家庭教育だと思ふ事が多いです。
[市 長]	家庭教育とは、難しいですね。
[教 育 長]	方向がなかなかないのです。社会教育の中に、「家庭教育」って入っているのですよ。難しいというか困難というしかないですね。
[市 長]	今年度の総合教育会議は、今回で終わりですね。今日は教育行政の意見交換ということで英語教育、社会教育等々を議論していただきましたが、他に何か気になる事とございますか。
	私たちの時の日本の教育は、キャッチアップですから、どちらかと言えば文献をきっちり読み込めれば論文的にもできると、昔はドイツ語でしたが、今は英語というようなかたちですが、今言われているのは、発信力を付けなければいけないという事で、喋る事が重視されていると思います。
	日本語の場合は、互いに阿吽の呼吸で喋りながら雰囲気を感じて、自ずと収まるところに収まるという対話の仕方ですが、それが悪い方にいけば虐めになり、良い方にいけば意思の疎通が図られ、トラブルなく物事が進むというような両方の面があるのですが、欠点としては、きっちりとした議論ができないですね。自己主張のできる部分とできない部分の差があり、今はマイナス面が着目されていような気がします。この辺りは、次年度の予算等々で教育委員会からご議論いただければいいと思います。
[委 員]	それ以外、少しでも何か気になる事は、ございませんか。 先ほどの定例教育委員会会議で今年の成人式についての報告がありまして、その時は、私は何も発言しなかったのですが、私の若干の思いですが、成人式の在り方の問題ですが、私も4回出ましたが、成人式の内容ですが、太鼓演奏が10分ぐらいかかっていますね。その後、式辞、記念品贈呈等、祝辞等で20分ですが、新成人が成人になったと、これから大人として生きていく上での責任を持つことを感じるようなプログラムを一つ追加できないかという素朴な疑問を閉式の時に思いました。しかし、具体的なものは何も浮かばないです。20才になれば選挙権があります。もうすぐ18才になりますかね。
[市 長]	そうですね。今年の6月19日から選挙権が18才になります。これは、世界の多数の国が18才だそうですが、ドイツの議論などを引用しているのを見ますと、ドイツは18才から国防義務を課したわけですが、世界が18才標準なのは何故かという、徴兵制じゃなくて国防義務を課したわけですが、これは、日本では議論されていません。国防義務を課すなら選挙権もくださいと、被選挙権はともかくとしても、そのようなパラレルな関係になっています。世界的に選挙権が18才になっているのは、国防義務との関係かららしいです。
	日本の場合は、憲法9条によって国防義務があまり関係ないので、徴兵制度だけ議論されています。今後、選挙権が18才となると、成人式の在り方を根本から問い直さないと厳しい状況になると思います。大人としてのイニシエーションとしての通過儀礼ですが、実はもっと厳粛なものであったのです。成人式そのものを何才にするのか等の法律上の行為能力は、おそらく結婚制度は女性16才、男性18才で成人としては、民法上20才ですが、これが変わる可能性があると思います。通過儀礼としての成人式も、非常に厳しいと思います。今年の成人式では、次の成人式をどうしたらいいのか考える前に、式そのものが成立するのか等の話が出てくる可能性があると思っています。



[市 長]

私として、教育について思っていますのは、理念も大切ですがプラグマティックに成績も含めて考える中で、傾向と対策という事で愚直に対策を講じて効果が出るかどうかは別として、愚直に対策を講じる所から出発すべきだと思います。現在の状況では、八幡市中学校レベルで見れば、就学援助率が全国平均の2倍から2.5倍という問題を抱えている中で、どの様に子どもたちの学力を向上させていくのかという辺りを、学校教育としては課されていると思っていますし、現市長としては、総合調整権で予算の許す範囲内で対策を講じます。教育委員の皆様は、八幡市の学力の状況を普段見ていただいていると思いますので、今後ともその方策等につきましてもこの会を含めまして、ご協議、ご助力いただきたいと思います。

それでは、これをもって平成27年度の総合教育会議は、閉会とさせていただきます。皆様、どうもありがとうございました。